

越前町議会・令和7年9月定例会一般質問【笠原 秀樹議員】

(令和7年9月3日 午後1時8分 開始)

- 13番（笠原秀樹君） それでは、議長のお許しをいただきましたので、一般質問をさせていただきます。

議長のおわびの答弁ありがとうございます。心からお礼を申し上げます。

まず、私は、スポーツ競技、これはいろいろと競技ありますが、そのスポーツ競技で全国大会等に出場されます激励金の交付事業についてお尋ねをいたします。

6月定例会では、私、町長に随分と質問をさせていただきましたが、まともな答弁は一つもないというような状況でございました。今回はきっちりと答えをいただきますように、まずもってお願いをしておきます。

この制度で本町の選手個人に対して激励金を出されていますが、最高ではいくぐらいになるのか、また、全国大会と世界大会の出場では負担も違ってきますので、差があると思いますので、金額をお答えいただきます。

- 議長（藤野菊信君） 町長。

- 町長（高田浩樹君） それでは、笠原議員のご質問にお答えします。

本町の個人に対しての激励金の最高額は、オリンピック及びパラリンピックに出た場合の10万円です。

- 議長（藤野菊信君） 笠原秀樹君。

- 13番（笠原秀樹君） 今回は、いくつもスポーツありますけれども、野球にしても何にしても、町内からすばらしい選手出ておりますけれども、今回はホッケー競技について、まず問わせていただきます。

理由は、現在の制度のままでは、越前町のスポーツ競技で本当に世界を目指すすばらしいアスリートの誕生は望めないのではないかと危惧する声が強くあります。そこで、この激励金制度を見直す必要があると考えますが、町長はどう思われておられますか。

- 議長（藤野菊信君） 町長。

- 町長（高田浩樹君） それでは、ご質問にお答えします。

本町と県内他市町の激励金制度を比較しますと、各大会規模において、県内で1番もしくは2番目の額で手厚くなっております。国際大会は大野市に次いで2番目、全国大会は勝山市に次いで2番目、地区大会については1番目となっております。

ホッケー競技につきましては、これらの激励金に加え、スポーツ少年団及び中学校に対しては、町ホッケー協会から県外での主要な大会に出場する場合の交通費、宿泊費、参加費の2分の1を補助しており、個人負担の軽減を図っております。

- 議長（藤野菊信君） 笠原秀樹君。

- 13番（笠原秀樹君） 私も調べました。分かります。私もこの質問をする前に、各県、スポーツが優秀な県の市町の状態を調べていただきました。

確かに町長のおっしゃるとおり、越前町10万円、ほかの地区にもありますので、それは分かりますが、今これから質問することに対して、非常に家庭の中で子どもさんを持っておられる親御さんが困っておられるという家庭がありますので、その気持ちを分かっていたくためにも、まず、町長は人の親ですか、それとも人の子でありますか、お尋ねをいたします。

○議長（藤野菊信君） 町長。

○町長（高田浩樹君） それでは、ご質問にお答えします。

負担額は、開催年度、開催地、滞在期間により異なると思いますが、調査によると、参加料、交通費、宿泊費等で20万円から30万円ぐらいでした。

○議長（藤野菊信君） 笠原秀樹君。

○13番（笠原秀樹君） 聞いているのとちょっと答弁が違いますが、例えば、世界大会でアンダー15、あるいはアンダー18、いろいろありますが、これ全て現地集合なんですよ。こちらから、越前町からそろって行くんじゃないんです。現地集合ということは、親御さんが成田、あるいは羽田、関空へ連れていくんです、これ。当然、前泊、高速、これらも含めると大変な金額になるんですが、私、この質問の前に何人かの父兄の方にインタビューをさせていただきました。

今回、中国で開かれましたアンダー18高校選抜、これ25万から30万円、1人、かかっておりますね。これは、もちろんその親御さんの直接の負担だけで、行き帰りの交通費や食事、ホテル代などは入っていないんですよ。それで今回、U18で8名の選手が選出されておられますが、そのほかの選手たちは、ほかの人よりも懸命に努力をして、そして練習の結果選ばれた日本代表ですよ。当然親御さんは喜ばれるはずなんです。

ところが、その子どもさんは両親に謝ったと、ごめんなさいと、選ばれて。何でやったら、お金がかかるんですよ、さっき言ったように。情けないと思いませんか。こんな情けない町のリーダーは誰ですか。

通告書出していますよ。

○議長（藤野菊信君） 町長。

○町長（高田浩樹君） それでは、ご質問にお答えします。

選手の皆さんやそれを支えるご家族においては、ご指摘のとおり様々のご苦労があるものと認識しております。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 笠原秀樹君。

○13番（笠原秀樹君） 質問に答えてくださいよ、質問に。答えていると思っていますか。

今ご家族で、夫婦が1か月頑張っても、町長の報酬の半分にもならないご家庭もいっぱいあるんですよ。そんな家庭の中でどうやってこの負担を支払うことができるのかお尋ねしたら、定期預金を解約したと。今まで少ない給料から少しでも蓄えにと貯金もしていたんですが、もうできなくなりましたと、そんな親御さんもおられるんですよ。

そして一番ショックを受けた言葉は、また次選ばれたらどうしようと。また同じ負担がかかるんです。こんな環境下であつたら、今後の町のスポーツに対する考え方が本当いい方向に向かっていくとお思いでしょうか。町長、考えをお聞かせください。

○議長（藤野菊信君） 町長。

○町長（高田浩樹君） ご指摘のとおり様々な形で費用が発生しているものと考えられます。選手の皆さんやそれを支えるご家族においては、ご指摘のとおり様々のご苦労があるものと認識しております。

アンダー18の選考については、個人にかかる負担金や選考される場合の大会参加について、承諾をいただいた上での参加であると聞いておりますが、親御さんとしては、子どもの希望をかなえたいという気持ちはよく分かります。ただ、高

校生ということもあり、個人負担金への助成については、慎重に考えなければならない側面もございます。それぞれのスポーツに打ち込む子どもたちがそれぞれの環境で輝けるよう支援していくのが当町の役割であると考えます。町といたしましては、引き続き町立ホッケー場の環境整備や大会開催補助などによる支援を行っていきたいと考えております。

また、本町では、高校生までの子ども医療費の助成、丹生高校生には、町内在住の場合の通学定期は全額補助、町外からの通学者は3割補助の通学支援を行っています。いずれにいたしましても、町といたしましては、直接的な支援のみならず、練習環境の整備や町全体におけるスポーツ振興、様々な子育て支援策なども含め、多角的、総合的な観点から、子どもたちが夢に向かって挑戦できる持続可能な環境づくりを検討してまいりたいと考えております。

○議長（藤野菊信君） 笠原秀樹君。

○13番（笠原秀樹君） それだけお気持ちは十分に分かりましたので、次の質問ですが、青柳町長は、財政の厳しさを考えられまして、自身の報酬を減額されました。4年間続けられておりました。ご自身は、町長就任と同時に、もらえるものは決まっているだけもらいましょうと。

よほど越前町の財政は豊かになったんだなと私は受け取りましたが、自分だけよければいいというのかどうか分かりませんが、それならすばらしい選手たちのために制度を見直して、負担を少しでも軽くするように考えを改めていただくのが本当ではないかと思いますが、これは激励金ということになっていますので、補助金制度に変えるというお気持ちはありませんでしょうか、お尋ねをいたします。

○議長（藤野菊信君） 町長。

○町長（高田浩樹君） 町長報酬が元に戻ったのは、前町長時代に定められた時限的な減額措置が条例の規定どおりに期間満了を迎えたことによるものであり、私が戻したものではありません。この時限的な内容を含む条例は、令和3年6月議会において、越前町特別職の職員で常勤の者の給与に関する条例の一部改正が上程され、議会の議決を得たものであります。

スポーツに対する支援制度に関しましては、直接的な支援はもとより、スポーツ環境の整備や町全体におけるスポーツ振興、また、通学補助や医療費助成といった様々な子育て支援も含め、多角的、総合的な観点から持続可能な支援制度を検討してまいりたいと考えております。

○議長（藤野菊信君） 笠原秀樹君。

○13番（笠原秀樹君） 制度のほかの県の状況も調査をしました。岐阜県、島根県、広島県、これみな3県ともスポーツが非常に強い県でございますので、各市町の状況は本町と似たところもありましたが、それより手厚い市町もありました。

激励金に限らず、ほかの市町の例に従って決定しているということが多いことがありますが、越前町はこれだけやっていると自慢できることがあってもまたいいのではないかと、本町独自の制度をつくってもらってもいいのではないかと思います、町長の考えをお尋ねいたします。

○議長（藤野菊信君） 町長。

○町長（高田浩樹君） それでは、ご質問にお答えします。

岐阜県、島根県、広島県の激励金を調査したところ、ご指摘のとおり、当町と似たようなところが多くありました。広島県では、市町の激励金のほかに、県ホッケー協会でもホッケー基金を立ち上げ、企業や個人に出資を募り、小・中学生の強化育成事業として大会や遠征等の助成を行っています。

本町では、越前町ホッケー協会に年間620万円、福井県ホッケー協会に年間100万円を交付しており、その中でスポーツ少年団、中学校に対する交通費等の補助金のほか、スポーツ少年団育成費及びアンダー15、アンダー12の選考会参加費の交付、町小学生はホッケー大会や中学生のチャレンジカップの開催などを行っています。

本町では、全国で唯一3面の人工芝ホッケー場を有しており、今後も施設の環境整備と有効利用を図り、ホッケーの振興に努めていきたいと考えております。

○議長（藤野菊信君） 笠原秀樹君。

○13番（笠原秀樹君） ほかの県はほかの県で、ほかの市町は市町でいいんです。ですけども、やはり越前町はこんなことをこれだけやっているから、今の丹生高校の女子にしても中学校の女子準優勝、町長のところへ挨拶に報告に来ていますけれども、やはりそれがずっと続いてもらわなきゃいけない。それでまた両親の負担も少なくしてもらわなきゃいけないということを目指して、やっぱり独自の制度を持たれてもいいのではないかと思います。

岩手県の沼宮内という町がございます。ここに高校があります。私も息子が高校時代ホッケーやっていたので、応援に沼宮内まで行きました。昔は非常に強かったんですが、何の手も打つこともなく、現在はその沼宮内の高校も弱くなってきたと、これでは駄目だということで、遅くなったんですが、制度の見直しなどをされまして、徐々に徐々に強くなってきていると聞いています。

島根県の出雲市、また南出雲町などは、もう小さい小学校のときから選手や指導者に対する条件等でスポーツが非常に盛んになってきているところもあると聞いていますが、町長はどう思われますか、お尋ねをいたします。

○議長（藤野菊信君） 町長。

○町長（高田浩樹君） それでは、ご質問にお答えいたします。

岩手県旧沼宮内町、現岩手町は、令和6年度に激励金制度の改正を行っていますが、当町とほぼ同額となっており、小学生に対しては、当町のほうが5割増しの激励金を交付しておりますので、岩手町より手厚い激励金となっております。

当町では、激励金のほか、福井県で開催される北信越中学校ホッケー選手権大会や北信越大会、インターハイ、また選抜大会への補助金も交付しています。また、越前町ホッケー協会と福井県ホッケー協会に合わせて720万円の補助金を交付し、ホッケー競技の発展と普及に寄与しています。

さらに、全国に誇る3面の人工芝ホッケー場の使用料は免除しており、存分に練習できる環境を提供しています。

指導体制としては、スポーツ少年団や中学校での指導に加え、総合型地域スポーツクラブ、越前スポーツクラブにおけるヴェルコスタ福井が指導者となるチャンピオンスクールの開催などにより、競技力の向上を図っております。

また、越前町のホッケー場で練習している丹生高校や日本リーグで活躍する福井工業大学、そしてヴェルコスタ福井の存在は、子どもたちの励みになっていると考えられます。

今後も施設の適切な維持管理に努めるとともに、越前町ホッケー協会や福井県ホッケー協会等と連携しながら、子どもたちの競技力の向上につなげていきたいと考えております。

○議長（藤野菊信君） 笠原秀樹君。

○13番（笠原秀樹君） 6月28日、土曜日でした。町の小学生ホッケー大会がありました。私はスポーツ協会のお世話をする立場として観戦をさせていただきました。

次代を担う少年少女たちが一生懸命ボールを追うプレーを、あの暑い中で頑張っていたいただきました。そして父兄の方々、また指導者の方も一生懸命指導もされていたいただきました。私も感謝の気持ちで、暑い中でしたが観戦をし、頑張れと心で応援をしたところでした。

今、これからの越前町のホッケーがずっと強くなっていかねばならないと、そう遅くなる前に、この子たちにあらゆる手を尽くして見守っていくべきだと考えました。町長は消防大会とのことで、私がおられるときには会うことはできなかったんですが、こういうようなことがあったときに、観戦もできたら自ら足を運んで行っていただければと思います。

7月の末から8月20日まで高校総体、インターハイがありました。私の孫も高校1年になりました。出場はしませんが、遠征に同行できましたので、ホッケー場まで送りました。そうしたら、ちょうどそのホッケー場の駐車場に岩手県のバスが到着をしていました。ちょうど女子の選手たちが降りてこられたんですが、遠いところから前日出られたんでしょう。どこか福井で宿泊をされて、そのインターハイに出場する選手たちが、ちょうど丹生高校の女子も出ますので、練習をすると、練習試合をするために来られたんだと思います。

本町は、地理的にも日本のど真ん中で、すばらしい施設、こんな立派なホッケー場施設が3面もあるなんていうことは、ほとんどないと思います。そうですから、その施設を最大限に生かしていくことが重要だと思いますが、関係することには、やっぱりできるだけ協力していく必要があると考えます。町長の考えをお聞かせ願います。

○議長（藤野菊信君） 町長。

○町長（高田浩樹君） それでは、ご質問にお答えします。

本町は、全国で唯一3面の人工芝ホッケー場を有しており、今後も施設の適正な環境整備に努めるとともに、主要な大会の受入れなど、有効利用を図ってまいりたいと考えています。また、福井県で開催する北信越高等学校ホッケーインターハイや選抜大会の大会補助金の交付なども引き続き行ってまいります。

丹生高校に対しましては、町内唯一の高等学校ということで、先ほどもご説明しましたが、通学補助については、ほかの高等学校に通学する生徒よりも手厚くなっています。また、中高一貫教育や青雲特待生奨学金として、約780万の丹生高校育成事業負担金も交付しております。

いずれにいたしましても、直接的な支援のみならず、練習環境の整備や町全体におけるスポーツ振興、様々な子育て支援策など、多角的、総合的な観点から、子どもたちが夢に向かって挑戦できる持続可能な環境づくりを検討してまいります。

なお、先ほどの6月28日の町小学校ホッケー大会に関しましては、消防技術大会などの予定が入っていたため、参加できませんでした。予定や都合などにより直接観戦できないこともございますが、様々な形でホッケーを応援していく所存です。

○議長（藤野菊信君） 笠原秀樹君。

○13番（笠原秀樹君） あえて答弁は求めませんでしたんですが、答弁していただいたことにはありがたいと思っています。私もその消防大会はよく知っておりますので、その後は答弁は求めなかったんですが、改めてしていただいたことにはお礼を申し上げます。

丹生高の女子の優勝報告にさらなる活躍を期待をするという挨拶をされたと、さきの町長の挨拶でありましたが、やはりこれは十分に頑張っているから越前町も

こうしますよ、こういうふうに協力していきますよ、努力していきますよという土台をやはりつくっていくのが為政者だと思いますので、いつまでも続く状態を続けていく体制を整えていく必要があります。

ただ、今これ野球にしても何にしても一緒ですが、県外へ行っても、例えば、今、インターハイへ出ただけでも、男子は2回戦で負けましたので、それでも3万円の負担がかかっています。女子はおそらく優勝まで行ったんですから、宿泊するのも長くなってもっと金額高かったと思いますが、当人の負担のほかに応援の家族の負担もあるということも含めると、やっぱりこういう選手を育てる親御さんの負担というのは、非常に大きいんだということをご理解をいただきたい。

私もインタビューをして本当に親御さんの大変な気持ちを分かったところでございますので、質問をしたところでございます。

また、この中国大会で選ばれた中に兄弟で選ばれたと、選手が。50万以上ですよ。大変な金額ですよ。この兄弟、また幾つになつたらどこかで、またどこかで出たら、さらにそれぐらいの金がかかる。もう解約する定期もなくなってしまうとお父さん、笑っていましたが、本当に親としてはうれしいしありがたいんですけども、子どもたちが一生懸命やってくれているおかげだから、これは無にすることはできないと、私も親ですから、町長も親ですから、十分理解していただけたと思いますので、お話をさせていただきました。

ただ、今、残念なことに、ホッケーにしろ何にしろ世話をするスポーツの指導をする指導者が非常に少なくなってきました。これもまた心配するところでございますが、私が世話をしている町のスポーツ協会は、地域スポーツの振興、これを重点にやっていますので、もちろん町長から補助金を頂いて、これを少しでもと、いわゆる町民の皆さんが健康長寿で過ごしていただきたいという思いを持って、気軽に挑戦できるようなスポーツを提供をしていますので、このスポーツ協会は、協会がなければ県の大会や、あるいは国民の大会に出られないということで、協会がなくてはならないということでもありますので、そういうこともご理解をいただきたいと思います。

これからは職員の皆さんに任せるのではなく、町長も先ほど言われましたように、機会がありましたら自ら足を運んでいろんなスポーツ観戦をしていただいて、改めるべきところは改めていただける制度をつくっていただきますようお願いをしておきます。

次に、志津朝日線県道昇格についてお尋ねをいたします。

この質問につきましては、令和2年に1回させていただいております。今日は、今、栃川区の方もコシヒカリの稲刈りに大変忙しい中で、笠原がこうやってやると聞いたでということで、傍聴に来ていただいております。

今年の期成同盟会も7月30日、何の進展もなく終了をいたしました。町長は挨拶の中で交通網の緩和、災害の場合の避難道路、大切だと。また、役員改選後の挨拶の中でも、皆さんの協力をいただいて引き続き努力をしていくと挨拶をされておられました。これまでと同じことをやるのではなく、新しい考えで職員に話されておられますが、この道路にかける町長の決意をお聞かせをいただきます。

○議長（藤野菊信君） 町長。

○町長（高田浩樹君） それでは、笠原議員のご質問にお答えします。

本路線につきましては、農林水産省と国土交通省所管の国庫補助事業により、町道志津線として整備を進めてまいりました。

しかしながら、市町境の山林区間においてトンネル整備が必然であり、相当の費

用を要することになるため、当時の旧清水町と旧朝日町が協議し、本路線の広域道路としての位置づけを鑑み、町道昇格の実現とその後の道路整備について県にお願いすることといたしました。平成4年には、本路線の県道昇格を目的とした志津朝日線道路整備促進期成同盟会が設立され、旧清水町と旧朝日町において要望活動を行ってまいりました。

町村合併後は、目的を同じくする越前越廼間県道昇格推進期成同盟会との統合を図り、越前町福井市間県道昇格推進期成同盟会として要望活動を行ってまいりましたが、いまだ実現していないのが現状であります。

本路線が開通することにより、住民生活への影響を考えますと、日常生活における利便性の向上が図られることはもちろん、豪雨時の地域住民の安全が確保されることとなります。

また、嶺北11市町で構成する連携中枢都市圏における人流・物流の主要幹線である福井朝日武生線の代替路線としても重要な役割を果たす道路でありますので、福井市との連携の強化を図り、この課題に取り組んでいきたいと考えております。

○議長（藤野菊信君） 笠原秀樹君。

○13番（笠原秀樹君） 本当に気持ちは一緒なんですよ、町長、私も。

ですから、令和3年7月豪雨、栃川区での土砂災害では、私たち議員も微力ではありましたが、ボランティア作業でお手伝いをさせていただきました。町長も当時議員として参加をして、その被害を現地で見られておられます。二度とあってはならないと思っております。

幸いにしまして、県の本当におかげで、次の災害を防ぐ工事が今、徐々にですが行われていることは、感謝に堪えない次第だと思っております。もし今後、あの災害以上のことが起こったとしたら、区民の皆さんもどこに逃げればいいのか、不安な毎日だと聞いております。

町として今後、越前町の最重要課題として県に対して要望していくべきと思いますが、どのように思われているのか。地区では、町が真剣に考えているのかどうか、栃川区の皆さんも今日傍聴されておられますが、町長の答弁を聞いて安心してお帰りいただけるような気持ちを聞かせていただきたいと思います。

○議長（藤野菊信君） 町長。

○町長（高田浩樹君） お答えいたします。

令和3年7月豪雨による栃川区の土砂災害時には、私も現地に赴き、床下浸水したお宅の土砂排出作業をお手伝いさせていただきました。被災後は、栃川区の役員さんや県及び町の関係機関が参加して、土砂や排水対策の検討会を実施しており、これまでに道路排水と谷水の分散化や下水管の敷設替え、かご枠による谷止め等の対策を実施しております。また、今後、県による砂防ダム建設事業なども予定されております。

私も令和3年豪雨のような災害は起こらないことを望んでおりますが、近年の豪雨災害は激甚化、頻発化し、いつ発生するかも分からない中、まずは、いざというときに、要支援者をはじめ全ての人が慌てず迅速に避難行動ができるよう、家族で避難時の行動等を話し合っておくこと、また、自宅周辺の危険箇所や避難施設の位置を確認するなど、日頃から備えていることが大切であります。町といたしましても、防災に対しましては、関係機関と協力しながらハード・ソフトの両面から対策を実施し、充実してまいりたいと考えております。

そうした中で、避難道としての役割も果たす町道志津朝日線の県道昇格につきましては、本年も福井県知事へ要望しておりますし、今後も強く要望していきたい

と考えております。

○議長（藤野菊信君） 笠原秀樹君。

○13番（笠原秀樹君） 気持ちは十分に理解はしました。

毎年期成同盟会で栃川区の皆さんから総会出席者の皆さんに、区民は30年以上もの間、もう悲願なんだと。長い長い何とか道路を通してほしいというお願いの気持ちを持って、通行不能区間の解消なども含めた要望のチラシを、これは町長にも期成同盟会でお渡しをしました。

十分に気持ちが理解をされていると思いますが、こういう地区の皆さんが、本当にもういつになったら、昨年の同盟会では前の区長さんは本当にもうやるのか、やる気持ちがあるのか、ないのか、できないのはできない、じゃ、できるのなら何年後なんだと、はっきり決めてちょうだいと、そんな気持ちも聞かせてほしいという、町長もあそこに議員としてあの当時出席されていたと思いますので、聞いておられると思うんです。それほどの強い思いを地区の皆さんは持っておられます。

ちょっと事前に打合せをした中での答弁に入っていなかったんじゃないかなと思いますが、例えば、安全な高いところに上がる熊野神社でしたかな、栃川の。あそこへいざというときに避難所でもできるような体制、道路が貫通するまでは、逃げるところがないならということも考えておくべきだと私はと思いますが、町長はどう思われますか。

○議長（藤野菊信君） 町長。

○町長（高田浩樹君） また今後、情報収集に努め、適切に対応していきたいと思います。

○議長（藤野菊信君） 笠原秀樹君。

○13番（笠原秀樹君） 一日も早く、何十年の願いが地区の皆さんに通じるように、願いがかなうことを切にお願いをしまして、私の質問を終わります。

（午後1時49分 終了）